

## 県民意識調査に係る委員からの意見（抜粋）

### 1 クロス集計に関して

	御意見	対応
① 少子化に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別、年齢、世帯年収、就業状態、労働時間、一緒に暮らしている人について回答とのクロス集計をしてほしいという意見が多く寄せられました。</li> <li>・性別&amp;子の有無でクロス集計してほしいという御意見が寄せられました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての質問に関し属性クロスを作成し、母数が少なすぎるものを除き、特徴的な項目について、報告書に記載しました。 （全体の属性クロスについては資料編に掲載）</li> <li>・性別&amp;子の有無については、クロス集計を別途行い、報告書に記載しました。</li> <li>・⑤については、設問ごとに異なる項目のクロス集計を行いました。</li> </ul>
②子どもがいる人の子育てに関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別、居住地、就業状態、労働時間、世帯年収、一緒に暮らしている人について、回答とのクロス集計をしてほしいという意見が多く寄せられました。</li> </ul>	
③独身者の結婚に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、性別、就業状態、年収と回答とのクロス集計をしてほしいという御意見が寄せられました。</li> </ul>	
④ワークライフバランスに関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、性別、就業状況、労働時間、世帯年収と回答とのクロス集計をしてほしいという意見が多く寄せられました。</li> </ul>	
⑤期待する少子化施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚の場合は性別クロスや既婚未婚別、妊娠・出産の場合は性別、年齢、労働時間、世帯年収クロス、育児支援の場合は労働時間と、施策ごとに異なる項目のクロス集計をほしいという意見が寄せられました。</li> </ul>	

### 2 その他、自由に寄せられた御意見から抜粋

#### ○結婚について

- ・少子化の原因、子育ての負担な点では、経済的な要因を挙げる人が多く、若い世代の労働・生活問題への積極的な対応が求められます。
- ・男性の独身理由の2番目に経済的な問題があることは深刻。安定した雇用は最優先で望まれます。

#### ○出産・子育てについて

##### <少子化に関する社会の状況>

- ・現場の感覚として「子どもがいる人の子どもの数」はそれほど減っていないと感じます。既婚未婚を問わず「子どもがいない人」と「いる人」の両極化が進んでいるのでは。
- ・子育て層に広がる漠然とした不安感を感じています。周りのお母さんたちも、「なんとなく1人でいいかなと思って」というような雰囲気です。他の理由もあるかもしれませんが、子育て層全体の子どもを持つことに対する意欲が低下している様子、それに先行するのは子育てに対する“漠然とした不安感”。今の日本では子どもがいる風景を肯定的に受け取れない場面が多くなってきていると思います。少子化対策が施策のみならず社会全体の子育て奨励の風向きを作っていくことを希望しています。

## 県民意識調査に係る委員からの意見（抜粋）

### <経済的支援>

- ・ 理想より実際の子どもの数が少ない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、子育ての不安な点として「子育てに出費がかさむ」と経済的理由が顕著です。実際に子育てをしてみると（お金をかけようと思えばいくらでもかけられますが）社会的には医療費の保障、公立学校の教育等、子どもが育つ上で必要な部分は十分提供されていると思います。子育てにはお金をかけなければならないという意識、不安感があるのではと感じます。

### <子育て支援のニーズの変化>

- ・ 子育て支援重要施策についての問で、前回の調査同様、経済的支援の充実を望む声は大きかったです。しかし、今回のデータと比べると、教育費への支援ともども前回の要求度よりは減少傾向にあります。反対に、保育サービスに関する項目、働く母親の職場環境整備に関する育児休業の項目、フレックスタイトなど柔軟な働き方の推進など、働き続ける母親のための施策を望む人は増加しています。
- ・ 学童及び病児・病後児保育のニーズが比較的高いです。乳幼児期に重点が置かれてきた子育て支援から、学童期の放課後の生活を保障する体制整備が求められます。
- ・ ハード面では、地域ぐるみで子どもを取り巻く環境の整備を、推進していく体制づくりが必要だと思います。放課後子ども教室では、地域や保護者の方に、指導員になってもらい運営しており、希望者が多く、抽選で決定している状況です。今後、地域で子どもの受け入れ場所を拡充し、安心して子どもが遊び学べる場所を確保していく必要があると感じます。

### <ワークライフバランス、子とのかかわり>

- ・ 拘束時間の長い残業もある仕事を選び、その結果子どもとの時間がとりづらくなる傾向も少なくありません。働きやすくない原因の中でもあるように、子育て世代に合うような勤務形態が増えるとういのはと思います。
- ・ 現場での印象では、父親の子育て参加率というのか、子どもをしっかり受け止めている父親の増加を顕著に感じます。報告の視点では「十分ではない」という否定的な側面が強調されていますが、「十分である」評価が過半数を超えていますので肯定的な視点でもとりあげられると思います。「子育てへの関わりが不十分な理由」に挙げられている意識の低い男性とが両極化しているのではないかと思います。
- ・ 子どもが生まれてからの時間の使い方を比較すると、男性が自己評価するほどは、自分の楽しみの時間を減らして子どものために使っていないことが推察されます。反対に、女性の自己評価と夫からの評価はほぼ一致し、女性が子どものために時間を使っていることがうかがえます。家庭内の役割分担に関する意識の改革にさらに努めていただきたいと思います。
- ・ ソフト面では、発達の段階を踏まえ、小学校から生命の大切さや家庭の役割・男女共同参画等を計画的に指導していくことが大切だと思いました。今、子どもの妊娠が分かると男性の子育てへの関わりが大事だと研修会を開いている病院もあります。子育てをしていくときの意識が変革していくように情報発信し、その上で、個人の価値観や選択ができるようにしていくことが大切だと思いました。